

『いつでも夢を』

西脇市立西脇病院
病院長 岩井正秀

冬の寒さの中にも、暖かい春の訪れがそこかしこに感じられる二月最後の日曜日、西脇市民会館で橋幸夫さんの講演会が開かれました。当日は盛況で大ホールが満員となり、入れなかった多くの方には隣の中ホールで、モニターを使って見ていただくようお願いしなくてはならないほどでした。今回の講演のテーマが認知症であったこともあり、西脇病院も主催者に加わっていました。

片山市長の挨拶のあと、橋さんの講演の始まりです。自分が芸能界に進むための道を作ってくれた、そして常に応援をしてくれたお母さんが、認知症を患ってしまいます。そのことによる橋さんと、ご家族の大変な日々が、時にユーモアを交え、また時に感慨深げに語られました。病気のことだけではなく、医療の現状に関してもとても勉強されているようでした。認知症の方の家族にとって大切なことは、できるだけ早く異常に気付いてあげることであり、そしてたとえ認知症が進んでも、その方がそれまで歩んできた人生に対する敬意は絶対に忘れてはいけない、その気持ちは必ず相手に伝わるものだ、と、橋さんは丁寧に何度も諭すように話されました。

私もステージのすぐ近くで講演を聞くことができたのですが、滑らかなとても聞きやすい口調、そして時折見せる身振り手振りに見入っているうちに予定の一時間半はすぐに経ってしまいました。講演が終わり大きな拍手の後、私はステージに上がってお礼の言葉を述べさせてもらい、花束をお渡ししました。近くで見る橋さんは、やはり大スターの風格があり、とても大きく見えます。しかし私から花束を受け取る時、橋さんは、すっと右手を差し出して握手をしながら「ありがとうございます」と、頭を下げられました。暖かい柔らかな手のひらでした。

講演会の後、橋さんが市民会館から出ていかれるのを、みんなでお見送りしました。その時、「実は去年、病院の職員コンサートで橋さんの『いつでも夢を』をみんなで歌わせてもらったんです」と話すと、にっこりと笑われて「えっ、そうなんですか。それはありがとうございます。病院もいろいろと大変でしょうけど、頑張ってくださいね」と言われ、もう一度、今度は力強い握手をして下さいました。

後片付けも終わり、市民会館を出て駐車場に向かって歩いていると、早春の風が頬を撫でていきます。その時、何処からか、あの『いつでも夢を』の優しいメロディが聞こえたような気がしました。